

# 教育センター・ニュース

Education Center, Tottori University

NEWSLETTER No. 5

第 5 号

2011年2月28日発行

## 教育開発部門の活動

### ●平成 22 年度全学 FD 講演会の開催

平成 22 年 12 月 17 日（金）、共通教育棟 A20 講義室と米子キャンパス（旧保健学科棟 323 講義室）を LAN 回線で結んで、全学の教職員を対象とした FD 講演会を開催しました。参加者は約 50 名でした。今回は、「教育の質保証と教授方法の改善に向けて」をメインテーマとし、大学教育支援機構・キャリアセンターの長尾博暢准教授、徳島大学・大学開放実践センターの田中さやか特任助教の二人を講師に招きました（=写真）。

まず長尾准教授は、「大学から社会への移行に FD はいかに寄与するのか—キャリアセンター教員からみた教育と支援の課題—」と題して、学生の「大学から社会への移行」という現代的な課題を取り上げ、各種調査の結果を示しながら、大学での従来の（必ずしもキャリア教育を意識したものではない）教育活動であっても学生のキャリア形成には大きな効果をもつため、キャリア教育の観点からも FD は重要であると論じました。

また田中特任助教は、「授業コンサルテーションの取り組みとその意義—徳島大学における事例を中心に—」と題して、FD の先進国である米国の大学や、近年我が国の大学で行われている「授業コンサルテーション」の理論・方法を説明し、続いて徳島大学での授業コンサルテーションの事例を、ビデオ映像もまじえながら紹介しました。

講演後には会場から熱心な質問がなされ、関心の高さがうかがわれました。また授業改善のツ

ルである初任者研修や授業参観を、「授業コンサルテーション」という枠組から実施することの意義も明確になったと思われます。なお、この講演会の詳しい記録は FD 報告書『わかりやすい講義をめざして』（4 月発行予定）に掲載されますので、関心のある方は是非そちらをご覧ください。

### ●FD 合宿研修会

FD 合宿研修会は、主に中堅の教員を対象とした合宿形式の FD 研修会です。昨年度に第 1 回を開催しましたが、その際に実施した参加者アンケートの結果をもとに、改善案を組み入れた第 2 回研修会を 11 月 19（金）・20 日（土）の 2 日間、大山共同研修所において開催しました。（=写真）

1 日目は、教育センター・外国語部門の武田修志教授が、平成 21 年度から開講している教養科目（特定科目）の「読書ゼミナール」について、その概要・成果を紹介しました。その後、各部局参加者の間で活発な意見交換が行われました。

2 日目は、まず教育センター・教育開発部門の桐山聰准教授が学生参画型授業に関する報告を行いました。次に徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部の齊藤隆仁准教授が、全学共通教育において社会人と学生が相互啓発的に学ぶ「共創学習」のコンセプトや、徳島大学の様々な取り組み事例について講演しました。齊藤准教授の講演の詳細も、FD 報告書『わかりやすい講義をめざして』に掲載される予定です。



### ●医学部医学科の米子地区一貫教育試行の調査

医学部医学科の米子地区 6 年一貫教育が試行されて 3 年目に入りますが、昨年に引き続いて今年も医学科カリキュラムの調査を実施しました。平成 22 年 12 月 21 日（火）には医学科 2・3 年生、翌 22 日（水）には同 1 年生を対象に、書面でのアンケート（マークシート＋自由記述）及び対面式の面談を行い、前回調査のデータと比較対照し

ながら、学長宛て調査報告を取りまとめ中です。

### ●FDのための授業公開

本年度後期の授業において、今後の「授業公開（授業参観）」を実施するための、そのコンセプトや実施方法を検討するための実験的試行として、以下の先生方の授業を公開していただきました。ここに、その一覧表を掲載します（下記）。

（部門長：田畑博敏）

公開日時 (場所)	意見交換会 日時・場所	「授業科目名」 授業担当者名	受講学生 (人数)	主な 参観対象者	授業公開の 目的・見所
11月30日 (火) 2時限 (共通教育棟)	11月30日 (火) 12:00 - 12:30 (共通教育棟)	「科学哲学」 (全学共通(基幹)・講義) 田畑博敏 (教育センター教授)	・主に1年生 ・全学部 ・62人	・初任者教員 向け	・初任者教員 向けの模範授 業
12月3日 (金) 1時限 (共通教育棟)	12月3日 (金) 10:15 - 10:45 (共通教育棟)	「科学リテラシー」 (全学共通(教養)・講義) 森川 修 (入学センター准教授)	・主に1年生 ・全学部 ・50人	・学生参加型 授業に関心 のある方	・学生参加型 授業(「子ども 科学実験教 室」)の紹介
12月15日 (水) 1時限 (共通教育棟)	12月15日 (水) 13:00 - 13:30 (共通教育棟)	「実践英語B」 (全学共通(英語)・演習) サージャント・トレバー (教育センター教授)	・1年生 ・医学部 (看、検) ・50人	・英語教育に 関心のある方	・本学の英語 教育の紹介
12月16日 (木) 5時限 (共通教育棟)	12月16日 (木) 18:00 - 18:30 (共通教育棟)	「鳥大読書ゼミナール」 (全学共通(特定)・講義) 武田修志 (教育センター教授)	・主に1年生 ・全学部 ・19人	・学生参加型 授業に関心 のある方	・読書ゼミナ ールの紹介
12月17日 (金) 1時限 (教育センター別館)	12月17日 (金) 10:15 - 10:45 (教育センター別館)	「教えること、学ぶことー教師論ー」 (全学共通(主題)・講義) 小椋孝昭 (鳥取大学特任教員)	・1年生 ・主に地域学部 ・28人	・学生参加型 授業に関心 のある方	・学生参加型 授業(学生に よる裁判劇) の紹介

### 外国語部門の活動

#### ●県立高校・鳥取大学教員交流事業で出前講義

11月12日(金)、県立八頭高等学校・国際英語科の1年8組(40名)に対してサージャント教授(英語担当)が出前講義を行いました。生徒たちはオーストラリアにホームステイに出かける計画があり、サージャント教授はその一助となるべく、オーストラリアに関する二つの講義を行いました。最初は、地理、歴史、社会、文化といったオーストラリアの基本情報に関する講義です。2番目は、滞在中の生活に関する諸注意で、特に、「勇気を持って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」の重要性を強調しました。さらに、電気機器を使用する上で問題となる「電圧の違い」や、オーストラリアの強烈な紫外線を避けるための日焼け止めクリームの必要性など、日常生活に関する事柄についてアドバイスを与えました。二つの講義のあとで、生徒たちから洗濯の仕方や、携帯電話の使用方法など生活上の細かい点について多くの質問があり、サージャント教授は「生徒たちのホームステイに対する期待感の大き

さを肌で感じた」との感想を述べていました。

#### ●AO入試・推薦入試I合格者に対面授業を実施

入学センターの依頼を受けて、11月13日(土)に総合メディア基盤センターを会場として、和田准教授がAO入試合格者37名に対面授業を行いました。授業では、入学後に3回の受験が義務付けられているTOEICの問題をPart IからPart VIIまで体験してもらい、その結果を踏まえて、残り少ない高校生活でしっかりと英語の基礎力をつける必要性を強調しました。

続く12月24日(金)には、筏津教授が推薦入試I(センター試験を課さない推薦)の合格者33名に対して、対面授業を行いました。入学後の2年間の英語カリキュラムを説明するとともに、その中におけるTOEIC試験の位置づけと試験の内容・概略についても説明し、実際に問題を体験してもらいました。受講者の中には、英語の不得意な学生も多く、和田准教授同様、4月に入学するまでに、高校のテキストの復習をするようにとのアドバイスを行いました。

### ●年末に1年生・2年生全員がTOEICを受験

TOEICを11月27日(土)に2年生が、12月18日(土)には1年生が、受験しました。

2年生の受験は今年から始まった新たな試みで、この結果は「総合英語Ⅱ」(後期)の成績の一部(2割程度)として取り入れられることになっています。試験結果をみると、2年生はTOEIC受験のモチベーションを維持するのが難しいようで、1年時のスコアが350点以下のレベルでは、1年次よりも大幅にスコアを落とした学生がかなり見受けられました。その原因としては、「総合英語」の授業内容の問題というよりも、むしろ、すでに300点をクリアしており、英語学習(あるいはTOEIC対策)に対する意欲が大幅に減退している点を指摘することができるかもしれません。

1年生は昨年5月に引き続いて2回目の受験でしたが、この試験で300点以下の学生は「実践英語B」(後期)の単位が保留されるということもあり、全員が真剣に受験したようで、昨年と比較しても全体的に成績が上がっています。1年生と2年生の平均点を比較してみると、すべての学部で1年生が20点から30点くらい2年生を上回るといった皮肉な結果となっており、手放しには喜べない状況にあります。今後、TOEICの全員受験を継続していくためには、まず、しっかりと原因を究明し、すみやかにその対策を練ることが喫緊の課題であると思われます。

(部門長：筏津成一)

### 健康スポーツ部門の活動

#### ●スキー実習参加者への安全指導

2月21日(月)から2月24日(木)までの日程で大山スキー場で実施予定のスキー実習の参加者に対する安全確保のための講習会を、1月21日(金)に実施しました。

#### ●社会貢献活動

11月14日鳥取県教育委員会主催の「鳥取県小学生スポーツ指導者講習会」にて上野准教授が「児童期におけるスポーツ指導の在り方」という演題で講演を行いました。

12月16日鳥取県東部医師会主催の「健康スポーツ医学講演会」にて上野准教授が「児童期から青少年期における社会心理的発達—スポーツ経験の功罪—」という演題で講演を行いました。

1月15日鳥取県体育協会主催の「平成22年度体育協会公認トレーナー養成講習会」にて上野准教授が「心理的問題を抱えたスポーツ選手への対応」という演題で講演を行いました。

### ●附属学校園における教育支援活動

昨年度に引き続き「キッズスポーツアンドスタディサポート」の活動を10月20日から12月15日までの計8回、毎週水曜日に実施しました(=写真)。活動には2、3年生20名が参加しました。活動実施前後に計測した数値を比較したところ、児童の敏捷性に向上が認められました。他方、保護者を対象とした本プログラムについてのアンケートでは、宿題を終わらせて帰ってくるので有り難いという、子育て支援としての効果を挙げる意見が、夏期プログラム後のアンケートと同様に、多く見られました。

(部門長：福元和行)



### 教職教育部門の活動

#### ●「教職履修カルテ」の開発

11月以降第9回から第11回まで3回の会議を行いました。カルテの内容が確定し、学生への周知、教員への協力要請をどのように行うか、そのためのガイダンス文書作成、ガイダンス日程の検討、さらに教職入門科目の内容検討と開講時期の変更(「人間と教育—教職入門—」の1年次前期から後期への変更)とそのため全学調整などを行いました。

#### ●教員免許状更新講習

11月中旬に無事今年度の講習を終了しました。12月1日には、今年度の総括と来年度の方針を検討する専門委員会が開催され、鳥取県の教員がつつがなく免許の更新ができるような質と量を備えた更新講習を計画実施することが決まりました。それを踏まえ、全学で調整の上、2月中旬に文部科学省に対して、必修4講座、選択51講座の認定申請書を提出しました。

#### ●教育実習関係

教育実習の手引き、実習日誌等の改善など、実習の改善を不断に行うために、教育実習委員会にWGを設置することを提案し、了承されました。WGではこの部門が一翼を担う予定です。

「学生参加型授業」とは？

教育開発部門：桐山 聡

「学生参加型授業」と聞くと、「授業には学生が参加しているものだろう？」と奇異に感じる方もおられるかもしれませんが、これは今日の高等教育における流行の1つです。ここでいう「参加」は、学生が能動的に授業に関わり、場合によっては授業のテーマや内容について提案を行うことを指します。学生が提案した授業が、(当然、教員による大幅な修正はありますが) 正規の授業として実現されている事例が他大学において存在しています。学生をやる気にさせるには学生たち自身に考えてもらうのが良からう、という発想の産物かもしれません。かつての講義における学生が必ずしも受動的であったとは思いませんが、現在の高等教育界限では、学生の学力低下に歯止めをかけるために、「学生にやる気を出させる」ことを大きな課題として捉えているわけです。

本学でも平成 21 年度に、本学で初となる学生参画型授業を企画・実施しました。この取組みは、文教速報にも掲載していただいたのですが、実のところせいぜい十数人の少人数クラスで実施する学生参画型授業それ自体は、客観的には奇をてらった趣味的取り組み以上のものではありません。こうした実験的な授業では、教育効果と波及性を兼ね備えた手法を要素的に検証する場としての意義が問われるはずですが、本学では、学生参画型授業の中で開発・検証した方法を、中規模の受講生数である「鳥取大学学」や「鳥取学」に適用しています。平成 23 年度には、また違った内容の学生参加型授業を開講する予定ですが、この一連の流れがいわゆる PDCA サイクルになっているわけです。

●教育臨床相談

- 小林(勝)准教授が以下の活動を行いました。
- ・カウンセリング 24 件(非行、抑うつ、発達障害、自殺念慮、いじめ、親子関係など)
- ・コンサルテーション 8 件(中学校 7、小学校 1)
- ・スーパーバイズ 9 件(養護教諭 4、小学校教諭 2、中学校教諭 2、専門学校講師 1)
- ・研修会講師 4 件(「いじめ指導と学級経営」、「高齢知的障害者の理解と支援」、「知的障害」、「生きる力を育むために」)
- ・附属小学校のピアサポート支援、NHK 教育放送「道徳ドキュメント」取材協力
- ・コミュニティ支援～井戸端会議、おやじの会

●教職相談

小椋特任教員を中心に、教員志望者に対して適性検査や相談を行いました。

●ワークショップデザイナー育成プログラム(社会人の学び直しニーズ対応推進プログラム委託事業)

11 月以降 8 回の講義と 4 回の補講が行われ、大谷准教授が講師等でプログラムの推進に寄与しました。

(部門長：山根俊喜)

## とりりーまん川柳

一、賞与減 浮いた経費はどこへ行く？

二、池上の 解説聞いて 予習する

三、学会に 行って初心を 思い出す

四、一周年 記念の号は 圧縮版

【評】一句、教育研究環境改善経費。早口言葉？二句、なるほど、こう説明すればいいのか！専門外の授業参観より参考になるかも。三句、危なく洗脳されるところだった。四句、小誌本号。

※このコーナーでは教育活動・大学運営にまつわる教職員の声を随時募集します(宛先は下記)。



教育センター関係教員 (○は部門長、\*は兼務教員)

センター長 : 本名俊正

教育開発部門 : ○田畑博敏、吉野 公\*、後藤和雄、石川雅雄、井上順子、永松利文、桐山 聡、武田元有

外国語部門 : ○筏津成一、福安勝則、武田修志、サージャント・トレバー、松本雅弘、和田綾子、小林昌博

健康スポーツ部門 : ○福元和行、上野耕平

教職教育部門 : ○山根俊喜\*、小林勝年、柿内真紀、大谷直史

※ 外国語部門、健康スポーツ部門、学生生活支援部門、附属学校連携部門の兼務教員は割愛しています。



編集・発行 鳥取大学教育センター広報誌編集委員会

電話 : 0857- 31- 6775 (内線 2485)

E-mail : [k-morimo@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:k-morimo@adm.tottori-u.ac.jp)